

## (翻訳) 高等教育における図書館基準

Standards for Libraries in Higher Education. (2018)

Retrieved February 5, 2021 from

<http://www.ala.org/acrl/sites/ala.org.acrl/files/content/standards/slhe.pdf>

藤原 芳行 (立教大学図書館 前事務部長)

中村 百合子 (立教大学教授)

2011年10月 大学・研究図書館協会 (Association of College and Research Libraries: ACRL) 理事会承認

2018年2月改正 ACRL 理事会承認

### 目次

はじめに

原則とパフォーマンス指標

付録

付録1 アウトカムの例

付録2 ベンチマークとピア比較

付録3 参考文献

付録4 本基準の歴史

付録5 ACRL 高等教育における図書館基準タスクフォース名簿

### はじめに

「高等教育における図書館基準」は、学術図書館が学生を教育する際のパートナーとしての役割を強化・維持し、その機関の使命を達成し、そして図書館を学内での評価と継続的な改善活動におけるリーダーとして位置づけるにあたり、図書館の指針となるよう設計されています。図書館は、自らの価値を証明し、機関全体としての有効性に貢献することを表明し、認証評価やその他の説明責任に関する指標を含めた、高等教育における変化への対応を準備している必要があります。本基準は、図書館、高等教育、および認証評価の実践における課題と動向についての研究と考察を通じて開発されました。本委員会は、さまざまな高等教育に所属する司書、また図書館のステークホルダーからの意見を聴取し、さらにこの分野での調査・研究や成功事例を活用しました。

本基準は、機関の有効性に対する、図書館に期待される貢献を明示しています。各機関にとって最適な方法で収集されたエビデンスとともに、アウトカムに基づくアプローチを採用した包括的な評価の枠組みを提供する構成になっています。

機関は、それぞれのミッションとビジョンに最適な形で本基準を使用することが奨励されます。本委員会は、各図書館が異なっていることを認識し、違いに応じて基準を適合させられるよう、可能な限り包括的であるよう努めました。例えば、ある図書館では、学生の学習を評価することに用いられるサイクルと同じようなサイクルで、毎年、評価する一つか二つの原則を定めるというように、本基準を参照することを選択するでしょう。他の図書館では、公式の報告書でエビデンスを提示する枠組みとしながら、プログラムの検証において本基準を用いるかもしれません。

## 参考にした情報源

本文書の諸原則は、図書館の主な役割と貢献を反映しており、関連する高等教育、認証評価、専門職の文書から抽出されました。参考にした専門的な情報源には、「ACRL 戦略計画 2020」、アメリカ図書館協会 (American Library Association: ALA) の「図書館の権利宣言」と「倫理綱領」、研究図書館協会 (Association of Research Libraries: ARL) の「ミッションに関する声明と指針となる原則」、ACRL の「学術図書館の価値」に関する報告書、そして過去の ACRL の基準が含まれています。高等教育の課題と動向は、学術図書館と機関のミッションとアウトカムに直接、影響を及ぼすため、留意する必要があります。高等教育の世界で現在、関心をもたれている事項として、アカデミアにおける説明責任に対する要求の高まり、アウトカムに基づく学習とプログラムの評価への期待、就学継続率と卒業率の向上への取り組み、学生の目標達成の重視、学生の取り組みと学業成績との関連に対する認識、調査・研究や探究学習などの教育実践の重要性などが含まれています。本基準の更新の過程では、アメリカ・カレッジ・大学協会 (Association of American Colleges & Universities: AAC&U)、公立・ランドグラント大学協会 (Association of Public and Land grant Universities: APLU)、アメリカ・州立大学連合 (American Association of State Colleges and Universities: AASCU) の文献や出版物を参考としました。

基準の更新において、本委員会は、認証評価機関、外部評価のために本基準を使用する ACRL コンサルタント、ACRL 基準に関する研修チーム、および ACRL の現理事会等と協議しました。検討の過程で、学生スタッフへ依存していること、司書の役割が継続的に進化していることなど、人事分野での最新の動向が見られました。本委員会の一つの目標は、基準が実際にどのように使用されているかについて理解を深めることでした。結果として、本委員会は、より多くの図書館での活用を促進するために、テクノロジーとリーダーシップを扱ういくつかのパフォーマンス指標の範囲を広げました。図書館が手はじめに容易に使うことができるよう現在の各種事例を提供するなど、付録に大幅な変更が加えられました。

2010 年の春、本委員会は、図書館基準と認証評価基準との関連付けを重視している学術図書館の館長に調査を実施しました<sup>1)</sup>。認証評価検討チームのメンバーとも、大学の機関認証の観点から図書館の特徴を特定するための協議を行いました。本委員会は、これらの結果を地域の認証評価機関で使われている概念や特定の用語と突き合わせて、機関の認証評価の報告書類と連動する、図書館用の一連の基準を作成しました。本基準を使用することで、図書館は、継続的な改善活動への評価結果の利用、学生の目標達成に関わるアウトカムの注視、ベンチマークの実施、図書館や機関のミッションとの整合性といった認証評価の動向に従うことができます。2017 年の改正時には、認証評価実施チームのメンバーとも、機関の認証評価という観点で、図書館ができる貢献や期待を明確にするために協議を行いました。

## 本基準の構成

本基準の中核をなす部分は、「原則」と「パフォーマンス指標」と題された章です。九つの原則とそれに関連するパフォーマンス指標は、すべてのタイプの学術図書館にあてはまる期待、つまり基準として意図されたものです。ただし、それぞれの図書館は、それぞれの利用者や組織の環境に対応しなければなりません。

図書館は、本基準を用いるにあたり、次のようなアウトカムに基づく評価方法を用いることが推奨されます。

- ① 原則に従うこと。

- ② それぞれの機関のミッションに合致し、機関の有効性に貢献するパフォーマンス指標を特定し、選択すること。
- ③ 特定の図書館に適用されるパフォーマンス指標を追加すること。(例：研究図書館のオープンアクセス・イニシアチブ、コミュニティカレッジの人材開発サポート等)
- ④ 当該パフォーマンス指標のアウトカムとして、「利用者は何ができるか」ということを具体的に明示できる、利用者中心で測定可能なアウトカムを開発すること。
- ⑤ 定量的、定性的、またはその両方について評価を実施すること。
- ⑥ 達成の程度を表す評価からデータを収集すること。
- ⑦ その評価データを、図書館の運営を継続的に改善するために利用すること。

場合によっては、エビデンスを収集することで評価が不要になることもあります。例えば、資格・教育・関連する経験を記した職員のリストを作成して、図書館員が、自らの配置に相応しい十分な教育と経験をもっていることをエビデンスとして提供できます。)

しかし、すべての場合において、「原則」は「パフォーマンス」に繋がり、それは目標達成度・効果・または有用性を測るための「エビデンス」を求めます。

そのような二つのモデルのあり方は、以下の図で示されます。

エビデンスに基づくモデル：



アウトカムに基づくモデル：



本基準文書には、アウトカム（付録1）とメトリクス（付録2）の例が示されています。これらは、達成すべき要件のチェックリストとしてではなく、あくまでも例としてあげられたものです。

本基準におけるパフォーマンス指標のように、アウトカムの例の多くは、あらゆる学術図書館に適用することができます。これらのアウトカムやメトリクスの例は、一つのあり方を示したもので、図書館固有の事情に基づく測定可能なアウトカムを設定するのに使えるツールとなりうるよう、本基準と合わせて用意しました。

ACRLは、アウトカムを「図書館の情報資源やプログラムに触れた結果、図書館利用者に見じた変化のあり方」と定義しています<sup>2)</sup>。したがって、パフォーマンス指標が図書館中心 (library-centered) である一方で、アウトカムは利用者中心 (user-centered) となります。アウトカムは利用者中心であるため、完全に図書館のコントロールの下におくことはできな

いと考えられます。それにもかかわらず、図書館の活動のアウトカムや効果は最終的に、その図書館がいかに関目標達成をすることができているかを判断する方法でなければなりません。各館固有のアウトカムやメトリクスは、当該機関のミッション、目標、評価方法に合わせて作られる必要があります。

アウトカムは、定性的、定量的、またはその両方のデータを収集して分析することによって評価できます。例えば、学生が教育上のニーズを満たすのにコレクションへのアクセスは十分できていると考えているかどうかを評価するために、学生を調査して定量的なデータを得ることがあります。その結果は、教育上のニーズに対するコレクションのサポートに「満足している」「非常に満足している」と回答する学生の割合などのメトリクスになりえます。フォーカスグループやインタビューからは、コメントなどの質的フィードバックを求めることができます。評価には、メトリクスの使用による、ピア機関のパフォーマンスと比較してのベンチマーク、または一定期間にわたる図書館のパフォーマンスの追跡も含まれるかもしれません。例えば、資料冊数と学生のフルタイム換算（Full-Time Equivalent: FTE）総数または学生総数の比は、他機関と比較して、学生の教育上のニーズを支えるコレクションが十分かどうかを判断する際に検討できるメトリクスです。メトリクスの選択は、アウトカムの選択と同様に、当該機関、認証評価のプロセス、各図書館固有の事情によって異なります。メトリクスは、データを解釈し、プレゼンテーションをするにあたって力を発揮します。アウトカム、評価、そしてエビデンス—これらすべてが継続的な改善サイクルを構成します。

## 基準の採択

これらの基準は、ACRL 基準委員会と ACRL 理事会によって承認されました。本基準は、「高等教育機関の図書館基準 2011 年版」および ACRL の各部門で作成された過去のすべての基準にとって代わるものです。この基準の完全な歴史については「付録4 本基準の歴史」をご参照ください。

ACRL は、本基準の効果的な活用を支援することを約束し、関心をもつ人々に、本基準に関する専門的な能力開発の機会と研修資料を提供します。

## 原則とパフォーマンス指標

本基準は原則とパフォーマンス指標で構成されています。

### 原則

#### 1. 機関に対する有効性

図書館は、機関の有効性に貢献する図書館の「アウトカム」を定義し、開発し、測定します。そして、それによって得られた知見を継続的な改善活動に活用します。

#### 2. 専門職の価値観

図書館は、その専門職が価値をおく「知的自由」「知的財産の権利と価値」「利用者のプライバシーと機密保持」「協働」「利用者中心サービス」を推し進めます。

#### 3. 教育的な役割

図書館は、機関の教育上のミッションのもとで、学業上の目標達成、調査・研究、生涯学



習のために、情報を効果的に発見しアクセスし利用することができる、情報リテラシーを身につけた学習者を育て支援するべく、連携します。

#### 4. 情報探索

図書館は、利用者がテクノロジーと知識の体系化を効果的に使って、あらゆる形式の情報を見つけることを可能にします。

#### 5. コレクション

図書館は、機関の調査・研究および教育上のミッションを支えるために、質、深さ、多様性、形式、最新であることにおいて十分なコレクションへのアクセスを提供します。

#### 6. 空間

図書館は、知的コモンズです。その空間で、利用者は学びを広げるために、物理的な環境とバーチャルな環境の双方においてアイデアをもって相互に交流し、新たな知識の創造が促進されます。

#### 7. 経営／管理／リーダーシップ

図書館の管理職は、図書館のミッションを効果的かつ効率的に遂行するのに見合った資源配分を知らせるべく、図書館内および学内の意思決定に参画します。

#### 8. 人事

図書館は、変化し続ける環境において、卓越性を確保し、十全に機能するために、十分な数と質のスタッフを確保します。

#### 9. 渉外

図書館は、自らの価値を広く唱導し、教育し、推進するために、複数の戦略を通して、大学およびより広いコミュニティに関与します。

### 各原則に関するパフォーマンス指標

#### 原則1. 機関に対する有効性

図書館は、機関の有効性に貢献する図書館の「アウトカム」を定義し、開発し、測定します。そして、それによって得られた知見を継続的な改善活動に活用します。

- 1.1 図書館は、機関のミッションに照らして、アウトカムを定義し、測定します。
- 1.2 図書館は、機関、各部門、学生生活それぞれのアウトカムに沿うようにして、独自のアウトカムを開発します。
- 1.3 図書館は、機関の認証評価のガイドラインに沿ってアウトカムを開発します。
- 1.4 図書館は、説得力ある方法で、その効果を明示するための、一連のエビデンスを開発し維持します。
- 1.5 図書館は、どのように学生の学習に貢献するかを説明し、エビデンスを集め、目標達成を立証し、結果を共有し、改善につなげます。
- 1.6 図書館は、学生の募集、就学の継続、学位取得にかかる時間、そして学業上の目標達成に貢献します。

- 1.7 図書館は、教育上のミッションと機関の有効性において、その価値を重視するように、大学コミュニティと意思疎通を図ります。

## 原則 2. 専門職の価値観

図書館は、その専門職が価値をおく「知的自由」「知的財産の権利と価値」「利用者のプライバシーと機密保持」「協働」「利用者中心サービス」を推し進めます。

- 2.1 図書館は、図書館資料を検閲しようとするあらゆる動きに抵抗します。
- 2.2 図書館は、利用者各人のプライバシーを守り機密を保持します。
- 2.3 図書館は、知的財産権を尊重し、対応方針と教育プログラムの策定を通して、情報の利用者とその権利保持者の利益のバランスを主張します。
- 2.4 図書館は、学問における誠実さを大切に、対応方針の策定と教育により、剽窃を予防します。
- 2.5 図書館は、利用者中心のアプローチを取り、物理的環境とバーチャルな環境における、サービスのデザインと提供のすべての側面において、利用者を中心に置くことを表明します。
- 2.6 図書館は学内で、また機関の垣根を超えて協働します。

## 原則 3. 教育的な役割

図書館は、機関の教育上のミッションのもとで、学業上の目標達成、調査・研究、生涯学習のために、情報を効果的に発見しアクセスし利用することができる、情報リテラシーを身につけた学習者を育て支援するべく、連携します。

- 3.1 図書館員は、図書館のコレクションやサービスを、学生の効果的な正課・正課外の経験に組み込むにあたり、教員やその他の人々と協働します。
- 3.2 図書館員は、情報リテラシーに関する学習のアウトカムを、カリキュラム、授業、課題に組み込むよう、教員と協働します。
- 3.3 図書館員は、教室での教育、オンラインでのチュートリアルデザインのデザイン、その他の教育実践について、最良の教授法実践の模範を示します。
- 3.4 図書館員は、様々な文脈において適切で適時な指導を提供し、多様な学習プラットフォームと教授法を採用します。
- 3.5 図書館員は、教員に専門性向上の機会を提供するべく、学内の他部局と協働します。
- 3.6 図書館は、教育と学習のテクノロジーの最新の発展に対応し続ける IT のインフラを保持します。

## 原則 4. 情報探索

図書館は、利用者がテクノロジーと知識の体系化を効果的に使って、あらゆる形式の情報を見つけることを可能にします。

- 4.1 図書館は、効果的な情報探索とアクセスのために情報を体系化します。
- 4.2 図書館は、図書館の情報資源へのアクセスを、機関のウェブやその他の情報ポータルサイトに統合します。
- 4.3 図書館は、ガイダンスと情報への複数の入口を提供するリソース・ガイドを開発します。
- 4.4 図書館はすべての情報資源を含むインターフェースとシステムのアーキテクチャ

を作って維持し、利用者が好む着手ポイントからの円滑なアクセスを可能にします。

- 4.5 図書館は、情報、そして情報資源の発見が変わりゆく状況をサポートするテクノロジーのインフラを保持します。
- 4.6 図書館は、利用者の情報探索に役立つように、多彩なプラットフォームを通じて利用者個別の支援をおこないます。

## 原則5. コレクション

図書館は、機関の調査・研究および教育上のミッションを支えるために、質、深さ、多様性、形式、最新であることにおいて十分なコレクションへのアクセスを提供します。

- 5.1 図書館は、研究分野、カリキュラムの重点、または機関の強みに対応したコレクションへのアクセスを提供します。
- 5.2 図書館は、バーチャルに、また物理的にアクセス可能なさまざまな形式の情報資源を組み込んだコレクションを提供します。
- 5.3 図書館は、デジタルコレクションを含む独自の資料を構築し、アクセスできるようにします。
- 5.4 図書館は、利用者が必要とするコレクションを収集し、整理し、アクセスを提供し、広め、保存するためのインフラを保持します。
- 5.5 図書館は、学術コミュニケーションの経済的かつ持続可能なあり方に関する問題について利用者を教育します。
- 5.6 図書館は学術的および文化的な記録への長期にわたるアクセスを保証します。

## 原則6. 空間

図書館は、知的コモンズです。その空間で、利用者は学びを広げるために、物理的な環境とバーチャルな環境の双方においてアイデアをもって相互に交流し、新たな知識の創造が促進されます。

- 6.1 図書館は、バーチャルな空間と物理的空間の自立的利用をサポートする直感的なナビゲーションを創出します。
- 6.2 図書館は、学習と研究に役立つ、安心で安全な物理的環境とバーチャルな環境を提供します。
- 6.3 図書館は、学習と研究に必要な、安定し信頼できるバーチャルな環境と物理的環境を提供するためのITインフラを保持します。
- 6.4 図書館は、図書館のミッションに従い、知的コモンズとして物理的空間とバーチャルな空間を使用します。
- 6.5 図書館は、学習と新しい知識の創造を促す教育方法にかなった空間をデザインします。
- 6.6 図書館の物理的空間には、最新で接続性の高い、管理の行き届いた機器や備品が備わっています。
- 6.7 図書館は、そのサービス、スタッフ、情報資源、そしてコレクションにとって適した環境条件と便利な利用時間と共に、学習と研究に役立つ、清潔で魅力的で十分な空間を提供します。
- 6.8 図書館の物理的空間とバーチャルな空間は、利用されることによって完成します。

## 原則7. 経営／管理／リーダーシップ

図書館の管理職は、図書館のミッションを効果的かつ効率的に遂行するのに見合った資源配分を知らせるべく、図書館内および学内の意思決定に参画します。

- 7.1 図書館のミッションに関する声明と目標は、機関によって作成されたものと一致し、それを前進させます。
- 7.2 図書館員は、効果的な図書館経営に必要な大学の意思決定に参画します。
- 7.3 図書館は、ミッションを推進するために、人的・財政的資源を効果的かつ効率的に配分します。
- 7.4 図書館には、機関内の他のニーズとの兼ね合いを見て、図書館利用者の合理的な期待に応えるための情報資源を提供するのに十分な予算が確保されます。
- 7.5 図書館は、費用対効果を高め、コレクションへのアクセスを拡大するために、複数の機関（例：コレクション・コンソーシアム経由）と提携します。
- 7.6 図書館の計画は、公式・非公式の様々な方法を用いて集めたデータとアウトカム評価に基づいて策定されます。
- 7.7 図書館は評価結果をステークホルダーに伝達します。
- 7.8 図書館員は、改善を継続する行動様式の模範を示します。
- 7.9 図書館は、継続的な改善活動のために、データやその他の評価を収集、分析、利用するのに必要な IT インフラを保持します。

## 原則8. 人事

図書館は、変化し続ける環境において、卓越性を確保し、十全に機能するために、十分な数と質のスタッフを確保します。

- 8.1 教員と学生の多様な教育と研究のニーズを満たすのに十分な数の図書館員が確保されます。
- 8.2 図書館員は、職位と組織のニーズに十分見合った教育と経験を有します。
- 8.3 図書館員は、自分自身と同僚の知識とスキルを維持および強化しながら、継続的な専門職の能力開発に対する努力を示します。
- 8.4 図書館員は専門職のナレッジ・ベースに貢献します。
- 8.5 図書館員は、専門職として有能で多様性があり、権限を与えられています。
- 8.6 図書館員は、図書館のテクノロジー、アプリケーション、およびインフラを最新の状態に保ち、継続的に研修に参加します。
- 8.7 図書館員は図書館の学生スタッフと関わり、指導と雇用を提供することで、学生の総合的な学術上の経験値を高めます。
- 8.8 図書館員は、進化する組織のニーズを満たすために、役割を点検し変容させ続けます。

## 原則9. 渉外

図書館は、自らの価値を広く唱導し、教育し、推進するために、複数の戦略を通して、大学およびより広いコミュニティに関与します。

- 9.1 図書館は、コミュニケーション、出版物、イベント、寄付者開拓と寄付金の受託責任を通じて、渉外活動に貢献します。
- 9.2 図書館は、さまざまな方法を使って適宜、大学コミュニティとコミュニケーション



をとり、そのコミュニケーションの有効性について評価します。

9.3 図書館員は、情報資源、サービス、専門性に対する利用者の認識を広げるために、図書館についての一貫したメッセージを伝えます。

## 付録

### 付録1 アウトカムの例

この付録では、いくつかのパフォーマンス指標についてのアウトカムの例を示します。各図書館は、機関のミッションと目標に基づいて独自のアウトカムを開発することが期待されています。

基準には、意図的に図書館を中心としたパフォーマンス指標が含まれています。しかし、アウトカムは利用者中心のものであるべきで、なるべくなら特定の集団に焦点を当て、その利用者がパフォーマンス指標のアウトカムとして、利用者が何をできるようになったかを具体的に明示するべきです。すべてのアウトカムは測定可能であるべきですが、定量的であれ定性的であれ、選択される評価方法は各館で違い、多様になるでしょう。

ここでは、パフォーマンス指標 3.5「図書館員は、教員に専門性向上の機会を提供するべく、学内の他部局と協働します。」に関する、考えうるアウトカムの例を四つ示します。

- ・教員は、図書館との協働を自らの最も良い実践に**統合する**。
- ・教員は、他の学内の他部局と協働して司書が提供するワークショップやその他の専門的な研修に**参加する**。
- ・教員は、司書によって行われた専門的な能力開発で得た知識とスキルを使って、調査・研究に基づく課題や授業を**改善する**。
- ・学内の他部局は、教員の専門的な能力開発の機会をデザインするために、図書館と協働することの価値を**認識する**。

これらのアウトカムの例は、次のような単純なパターンになっています。すなわち「対象集団」「行動（動詞）」「目的（対象集団が行うこと）」によっています。上記の例では、「教員」が対象集団です。「動詞」と「目的」はさまざまです（動詞は太字で強調されています）。ブルームの分類法（Bloom's Taxonomy）やその詳しい説明は、行為動詞についての優れた情報源です。クレムソン（Clemson）の "Bloom's Taxonomy Action Verbs" は、ブルームの動詞についての多くのインターネット上のリストの1例です<sup>3)</sup>。

### その他のアウトカムの例

#### 原則1. 機関に対する有効性

パフォーマンス指標 1.6「図書館は、学生の募集、就学の継続、学位取得にかかる時間、そして学業上の目標達成に貢献します。」

#### アウトカムの例

- ・図書館サービスを利用する学生は、学業成績が向上する。
- ・学生は、自身の学業成績について、図書館の役割の影響があると述べる。

パフォーマンス指標 1.7「図書館は、教育上のミッションと機関の有効性において、その価値を重視するように、大学コミュニティと意思疎通を図ります。」

アウトカムの例

- ・大学執行部は、適切な資源配分によって、図書館への支援を表す。
- ・大学執行部は、学生募集の努力の一環として図書館関連の成功例を取りあげている。

## 原則 2. 専門職の価値観

**パフォーマンス指標 2.4「図書館は、学問における誠実さを大切にし、対応方針の策定と教育により、剽窃を予防します。」**

アウトカムの例

- ・図書館が学問における誠実さに関するワークショップを活性化した後、剽窃の件数が減少する。

## 原則 3. 教育的な役割

**パフォーマンス指標 3.1「図書館員は、図書館のコレクションやサービスを、学生の効果的な正課・正課外の経験に組み込むにあたり、教員やその他の人々と協働します。」**

アウトカムの例

- ・教員は、授業や課題の開発において、図書館の情報資源の利用について司書のアドバイスを求める。
- ・学生は、正課と正課外の情報ニーズについて、図書館のコレクションを利用する。
- ・教員は、学生に図書館のデータベースからさまざまな情報源を利用するよう求める。

**パフォーマンス指標 3.2「図書館員は、情報リテラシーに関する学習のアウトカムを、カリキュラム、授業、課題に組み込むよう、教員と協働します。」**

アウトカムの例

- ・教員は、自身の授業や課題について、情報リテラシーに関する学習のアウトカムを開発するにあたって、司書のアドバイスを求める。
- ・教員は、情報リテラシーに関する学習のアウトカムからの学びを紹介し、それを強化し、支える。
- ・教員は、学生に、年次進行に応じて、情報リテラシーに関する学習のアウトカムのより洗練された実践を要求する。
- ・教員は、情報リテラシースキルを教えるプログラムのカリキュラムの有効性を評価するにあたって、司書のアドバイスを求める。
- ・学生は、情報を見つけ評価し利用する能力を証明する。

**パフォーマンス指標 3.3「図書館員は、教室での教育、オンラインでのチュートリアルデザイン、その他の教育実践について、最良の教授法実践の模範を示します。」**

アウトカムの例

- ・司書は、すぐに使えるアクティブ・ラーニングのテクニックを組み込んだ情報リテラシー教育のセッションをデザインし、管理する。

- ・ 教員は、司書に教授法実践に関する助言を求める。
- ・ 学生や教員は、図書館のチュートリアルがうまく設計され、効果的な教育資源であることを指摘する。

#### 原則 4. 情報探索

**パフォーマンス指標 4.4 「図書館はすべての情報資源を含むインターフェースとシステムのアーキテクチャを作って維持し、利用者が好む着手ポイントからの円滑なアクセスを可能にします。」**

##### アウトカムの例

- ・ 教員と学生はすべて、今いるところから、教育と研究のニーズのためにコレクションにアクセスできる。
- ・ 利用者は、探索の最初のステップの一つとして図書館の Web インターフェースを選択する。
- ・ 利用者は図書館のインターフェースを簡単に見つけることができ、ナビゲートが直感的にできるとみなしている。
- ・ 利用者は、日々の検索行動に図書館のインターフェースとアーキテクチャを統合している。
- ・ 利用者は、図書館のインターフェースを選択して、情報ニーズにあった資料を見つけることができる。
- ・ 利用者は、図書館のインターフェースと図書館を通して見つけた情報資源を用いることが、成功の理由の一つだと判断している。

**パフォーマンス指標 4.6 「図書館は、利用者の情報探索に役立つように、多彩なプラットフォームを通じて利用者個別の支援を行います。」**

##### アウトカムの例

- ・ 利用者は、司書との 1 対 1 の相談を通じて調査・研究スキルを向上させる。
- ・ 利用者は、司書との 1 対 1 の相談の結果として、調査研究を行う際に、調べる資料の種類（例えば、図書、雑誌、一次資料などの複数の形式）を拡大する。
- ・ 利用者は、司書との 1 対 1 の相談を通じて学んだスキルを、他の調査・研究の文脈に容易に適用できる。

#### 原則 5. コレクション

**パフォーマンス指標 5.1 「図書館は、研究分野、カリキュラムの重点、または機関の強みに対応したコレクションへのアクセスを提供します。」**

##### アウトカムの例

- ・ 教員は、教育と研究のニーズに合わせて情報資源を使用する。
- ・ 教員、学生、地域の人々は、教育、仕事、調査・研究のニーズに対して図書館によって提供されるコレクションに満足している。
- ・ 学生は、学修に必要な、適切な資料を図書館で発見する。

- ・教員は、研究に必要なデータセットを発見する。

**パフォーマンス指標 5.5 「図書館は、学術コミュニケーションの経済的かつ持続可能なあり方に関する問題について利用者を教育します。」**

アウトカムの例

- ・教員は自身の学術研究を機関リポジトリに置くことを選択する。

## 原則6. 空間

**パフォーマンス指標 6.7 「図書館は、そのサービス、スタッフ、情報資源、そしてコレクションにとって適した環境条件と便利な利用時間と共に、学習と研究に役立つ、清潔で魅力的で十分な空間を提供します。」**

アウトカムの例

- ・学生は図書館を、歓迎されている環境として認識する。

## 原則7. 管理／運営／リーダーシップ

**パフォーマンス指標 7.2 「図書館員は、効果的な図書館経営に必要な大学の意思決定に参画します。」**

アウトカムの例

- ・図書館の管理職は、全学的な意思決定の委員会等に参画する。

**パフォーマンス指標 7.7 「図書館は評価結果をステークホルダーに伝達します。」**

アウトカムの例

- ・教員は、プログラムの見直しプロセスに、図書館の評価結果を組み込んでいる。

## 原則8. 人事

**パフォーマンス指標 8.1 「教員や学生の多様な教育と研究のニーズを満たすのに十分な数の図書館員が確保されます。」**

アウトカムの事例

- ・教員と学生は、調査・研究と指導のニーズを満たすために図書館スタッフ数が十分であると考えている。

**パフォーマンス指標 8.2 「図書館員は、職位と組織のニーズに十分見合った教育と経験を有します。」**

アウトカムの例

- ・教員と学生は、調査・研究と指導のニーズを満たすのに図書館スタッフの質が十分であると考えている。



**パフォーマンス指標 8.7「図書館員は図書館の学生スタッフと関わり、指導と雇用を提供することで、学生の総合的な学術上の経験値を高めます。」**

アウトカムの例

- ・学生スタッフにとって図書館スタッフは、学業や仕事ぶりについて知り、就職活動にあたって推薦を依頼する相手となっている。

**パフォーマンス指標 8.8「図書館員は、進化する組織のニーズを満たすために、役割を点検し変容させ続けます。」**

アウトカムの例

- ・図書館員の役割は、新しい図書館サービスと整合している。

## 原則9. 渉外

**パフォーマンス指標 9.1「図書館は、コミュニケーション、出版物、イベント、寄付者開拓と寄付金の受託責任を通じて、渉外活動に貢献します。」**

アウトカムの例

- ・地域の人々は、図書館に感謝を表す。
- ・地域の人々は、図書館を積極的に利用している。

## 付録2 ベンチマークとピア比較

### ピア機関との比較の利用とその有用性

多くの学術機関は、自身の強みと弱みを特定するべく、類似の機関との比較によるベンチマークを使用しています。例えば、ベンチマークは、ある地域内、ある学生数、またはその他の関連する特徴において類似する機関と比較して、その機関や図書館が同程度の財政や人員レベルかどうかを示すために使用することができます。機関や図書館は、組織の質と有効性を高めるように開発した戦略を知らせるのに、ベンチマーキングを使用することができます。

図書館は、利用できるようであれば、比較のために既存のピアグループを利用することが奨励されます。この情報は、機関の教務部または IR (institutional research) 部局から入手できます。対象機関としては、二つのピアグループが考えられます。

- ・実質的ピアグループ：比較をするための機関
- ・将来的ピアグループ：将来像として目指すモデルとなる機関

ピアグループがまだ決まっていない場合、図書館は機関の執行部と相談して一つまたはそれ以上のピアグループを設定することが奨励されます。ピアグループが決定されれば、図書館は比較のためのデータを特定することができます。

専門職団体、政府機関、およびその他の組織は、ベンチマークに利用できる学術図書館の統計を収集し、提供しています。例としては次のようなものがあります。

- ・全米教育統計センターの IPEDS (総合高等教育データシステム) 調査の学術図書館関係データは毎年、更新されています<sup>4)</sup>。学術図書館関係データは、50州とコロンビア特別区等における、学位授与を行っている、高等教育法第4条に含まれる高等教育機関の学

術図書館の情報資源、図書館間貸借サービス、支出に関する情報を収集しています<sup>5)</sup>。IPEDSの「データ利用」ページには、さまざまなツールがあり、さまざまな機関のデータをダウンロード、比較、分析できます<sup>6)</sup>。

- ・大学・研究図書館協会（ACRL）は、全米のあらゆる種類の学術図書館を毎年調査しています。ACRLは、2000年から現在までのACRLおよび全米教育統計センター（NCES）調査データへのアクセスを提供するサブスクリプション契約のオンラインサービスである「ACRLMetrics」を提供しています<sup>7)</sup>。
- ・研究図書館協会（ARL）は、120以上の会員館のコレクション、支出、職員配置、サービス活動を記した年次統計を収集しています<sup>8)</sup>。ARLの会員館の職員は、ARL統計分析サイトを通じてARL調査データにアクセスできます。非会員も購読することができます<sup>9)</sup>。

以下に提示するのは、ピア機関との関係で自らの位置をよりよく理解するのに図書館がベンチマークを活用することができる、たくさんある方法の一例です。図書館の実践に関連する定義、用語、アプローチの進化をいつも認識していることは重要であり、それらのすべてがベンチマーク活動に影響を与える可能性があります。正しいベンチマークとは「リングとリング」の比較であり、比較されるデータ要素は同じものでなければなりません。いくつかの用語は類似しているように見えるかもしれませんが、実際には、異なる要素を比較している可能性があり、非常に異なった質問に対する回答を含むことがあります。例えば、ある調査では頭数を尋ね、他の調査ではフルタイム換算（FTE）を尋ねているかもしれません。別の調査では、蔵書を冊数として考えており、別の調査ではタイトル数として考えているかもしれません。調査や定義の進化に応じて、ベンチマークを行う前に、比較するデータ要素が同じであるかどうか慎重に確認することが重要です。

### 原則1. 機関に対する有効性

- ・授与された学位またはその他の公式の賞の数。
- ・卒業率。
- ・在籍率。例：秋学期から秋学期。
- ・機関の支出における図書館支出のパーセンテージ。例：機関の総支出における図書館総支出のパーセンテージ。

### 原則2. 専門職の価値観

- ・学内委員会において司書が委員を務めている数。
- ・著作権などの問題に関するワークショップの実施数または図書館への相談件数。

### 原則3. 教育的な役割

- ・講習会や授業内でのプレゼンテーションへの参加者数。例：フルタイム学部学生あたり。在籍学生あたり。
- ・講習会や授業内でのプレゼンテーションの数。例：物理的に、ないしはバーチャルに。
- ・学生エンゲージメント調査（National Survey of Student Engagement: NSSE）の「情報リテラシーの経験」トピックモジュールの調査データ。  
例：NSSEトピックモジュールの質問「この機関での修学経験は、情報を正しく活用す

ることについてのあなたの知識、スキル、および個人的な成長にどのくらいよい影響をもたらしましたか。」における「非常に」または「かなり」と回答した回答者の数。または、コミュニティカレッジ学生エンゲージメント調査（Community College Survey of Student Engagement: CCSSE）の、さまざまな情報源からのアイデアや情報を統合する必要があるレポートやプロジェクトに取り組んだことを聞く質問に対して、「非常に頻繁に」または「頻繁に」の回答を参照する。

- ・単位取得ができる情報リテラシー科目の数。例：単位が取得できる必修の情報リテラシー科目。単位取得ができる選択の情報リテラシー科目。
- ・指導サービスを繰り返し利用している教員数。例：繰り返し依頼する教員のために行われている授業セッションのパーセンテージ。
- ・過去1年間に指導サービスを依頼した教員のパーセンテージ。
- ・指導担当の司書1人あたりの情報リテラシー講座の数。
- ・司書が組み入れられている科目の数。

#### 原則4. 情報探索

- ・レファレンス質問の対応件数。例：週ごと。質問手段別、問いに答えるまでの時間の長さ別。
- ・在学生数に対するレファレンス件数の比率。例：フルタイム学生あたり。パートタイム学生あたり。
- ・オンラインガイドの学内者の利用状況。

#### 原則5. コレクション

- ・学生1人あたりの図書資料費の総支出。例：フルタイム学部学生あたり。フルタイム大学院学生あたり。
- ・教員1人あたりの図書資料費。例：常勤教員あたり。非常勤教員あたり。
- ・タイトル数（紙+電子）。例：フルタイム学生あたり。常勤教員あたり。
- ・図書館総資料費のパーセンテージ。例：図書館総資料費における単行書への支出のパーセンテージ。
- ・図書館総支出に対する資料費のパーセンテージ。例：図書館の総支出に対する図書館資料費のパーセンテージ。
- ・学生1人あたりのコレクション利用。例：学部学生あたり。大学院学生あたり。
- ・図書館間貸借。例：貸出が借入よりも多い図書館 vs 借入が貸出よりも多い図書館。
- ・WorldCat Localに見るユニークな資料。

#### 原則6. 空間

- ・フルタイム換算（FTE）学生数に対する図書館の座席数の比率。
- ・利用者コミュニティが利用する学習空間と備えられたテクノロジーのタイプ。
- ・学期中の週ごとの開館時間。
- ・1学年暦中の開館日数。
- ・ゲートを通過した利用者数。例：FTE 学生あたり。秋学期と春学期の開館延長時間中。

## 原則7. 経営／管理／リーダーシップ

- ・開館時間あたりのコスト。
- ・図書館支出のパーセンテージ 例：図書館総支出における給料と賃金のパーセンテージ。図書館総支出における資料費のパーセンテージ。図書館総支出におけるその他の運営経費のパーセンテージ。
- ・学生1人あたりの総運営経費。例：フルタイム学部学生あたり。フルタイム大学院学生あたり。
- ・教員に対する総支出。例：常勤教員あたり。非常勤教員あたり。

## 原則8. 人事

- ・給料と賃金の支出。例：フルタイム学部学生あたり。大学院学生あたり。教員あたり。在学生あたりの専門職員の人件費。
- ・フルタイム換算（FTE）の職員1人あたりの在学生数。例：フルタイム換算（FTE）職員あたりのフルタイム学部学生。フルタイム換算（FTE）職員あたりのフルタイム大学院学生。
- ・職員のパーセンテージ。例：全職員のうち専門職のパーセンテージ。全職員のうち補助職員のパーセンテージ。
- ・給料。例：専門職員の給料。補助職員の給料。職員の総給料。
- ・図書館総支出のうちの給料のパーセンテージ。
- ・専門的な研修の費用。例：専門職員あたり。
- ・スタッフの入れ替わり率。

## 原則9. 渉外

- ・図書館に対する寄付。例：総寄付額に占めるその年の寄付のパーセンテージ。
- ・地域の人々の利用証の数。
- ・実施された広報イベントへの地域の人々の出席者の割合。
- ・ソーシャルメディア。例：Twitter のフォロワーの増加、Facebook 投稿に対する反応数。

## 付録4 本基準の歴史

本基準は、2017年12月5日にACRL基準委員会により、2018年2月12日にACRL理事会により承認されました。

本基準は、「高等教育における図書館基準」の2004年版および2011年版のみならず、ACRLのカレッジ図書館部会（College Libraries Section: CLS）、コミュニティおよびジュニアカレッジ図書館部会（Community and Junior College Libraries Section: CJCLS）、またユニバーシティ図書館部会（University Libraries Section: ULS）によって過去に制定された、すべての各図書館基準にとって代ります。

カレッジ図書館基準の初版は1959年に出版されました。その後の版は、1975年、1986年、1995年、2000年、および2011年に出版されました。二年制大学のための基準は、当初1960年に出版され、1979年、1990年、および1994年に改訂されました。ユニバーシティ図書館のための基準は、当初1979年に出され、1989年に改訂されました。1998年、ACRL理事会は、学術図書館のアウトカム評価に関するタスクフォースの提案を受け、将来



の基準はすべてアウトカム評価を含むように指示しました。「カレッジ図書館基準 2000 年版」は、アウトカム評価を盛り込んだはじめての基準であり、他の二つの図書館基準のモデルと考えられました。

CLS、CJCLS、および ULS の各部会の基準委員会からの代表者が会合をもち、ついに、新たな「カレッジ図書館基準」が、すべての学術および技術に関わる図書館で使われるべく、一つの包括的な基準として改訂されるよう提言しました。ACRL は、この課題を遂行するために、2002 年にタスクフォースを組織しました。2004 年 6 月に、ACRL 基準及び認証評価委員会と ACRL 理事会が 2004 年文書を承認し、当時存在していた三つの図書館基準が廃止されました。

2009 年に ACRL 会長ローリ・ゲッチュ (Lori Goetsch) は、タスクフォースに、2000 年基準を見直し改訂するように指示しました。2010 年の春に、学術図書館の館長たちに対して調査が実施されました。2011 年 3 月に、基準の草稿が ACRL のウェブサイトで公開され、ブログでコメントが書き込めるようにされました。2011 年 4 月の ACRL 2011 年年次大会におけるヒアリングは、会員にコメントとフィードバックを提供する追加の機会を提供しました。

2011 年の基準は、機関の有効性に対する図書館の貢献についての期待を明示していることにより、従来基準とは異なっています。この基準は、各機関にとって最適な方法で収集されたエビデンスとともに、アウトカムに基づくアプローチを採用した包括的な評価の枠組みを提供しており、構造的にも違うものとなりました。

2016 年のタスクフォースは、典型的な 3 年の見直しサイクルの一環として、2011 年基準を見直すよう命じられ、その間の図書館のサービス、運営、およびテクノロジーにおける変化について調査するよう求められました。その委員会は、調査、環境スキャン、および一連のインタビューを通じて、任務を遂行しました。四つの公聴会が改正の過程において開催されました。2017 年 ALA 冬季大会、2017 年 5 月のバーチャルな公開フォーラム、2017 年 ALA 年次大会、および 2017 年 9 月の最終的なバーチャルな公開フォーラムです。これらのフォーラムは、さらなるコメントと反応を促すために開催されました。

2018 年基準はすべてのタイプの図書館で、より容易に基準を適用できるものとするために、いくつかのパフォーマンス指標 (特にテクノロジーと経営/管理を対象としている指標) が拡大されていることにより、過去の基準とは異なっています。本基準は、「付録」においても、図書館に現在の各種事例を提示するべく、多くの変更がなされています。

#### 訳者による注釈 (Appendix by the translators)

- ・ 「高等教育機関の図書館基準 2011 年版」には、次の日本語訳がある。  
永田治樹, 江原つむぎ「米国大学図書館協会(ACRL)高等教育機関における図書館基準」  
[http://www.ala.org/acrl/sites/ala.org.acrl/files/content/standards/high-ered\\_japanese.pdf](http://www.ala.org/acrl/sites/ala.org.acrl/files/content/standards/high-ered_japanese.pdf), (アクセス 2021-02-05) .
- ・ 本文書中の「機関」とは、当該図書館が所属する、college、university 等の高等教育機関をさす。付録 4 を参照のこと。
- ・ 原文の付録の末尾にはベンチマーキングについての参考文献リストがあるが、略した。
- ・ 「付録 3 参考文献」の文献リストは略した。
- ・ 「付録 5 ACRL 高等教育における図書館基準 タスクフォース名簿」は略した。
- ・ 原文では付録 5 に続いて、本基準を引用する際の書誌記述のあり方についての例示があ

るが、略した。

謝辞 翻訳にあたっては立教大学図書館のみなさんに多くの貴重なご意見をいただきました。ここに記して感謝いたします。(2021年2月)

- 
- 1) Patricia Iannuzzi and Jeanne M. Brown, “ACRL’s Standards for Libraries in Higher Education: Academic Library Directors Weigh In,” *C&RL News* 71, no. 9 (October 2010): 486–87.
  - 2) Association of College and Research Libraries, *Task Force on Academic Library Outcomes Assessment Report* (Chicago: Association of College and Research Libraries, 1998), <http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/acrl/publications/whitepapers/taskforceacademic.cfm>.
  - 3) Clemson University Office of Institutional Assessment, “Bloom’s Taxonomy for Categorizing Learning Outcomes,” accessed October 20, 2017, <https://www.clemson.edu/cecas/about/assessment-and-planning/assets/blooms-taxonomy.pdf>
  - 4) National Center for Education Statistics, “Integrated Postsecondary Education Data System” home page, accessed March 20, 2017, <http://nces.ed.gov/ipeds>.
  - 5) National Center for Education Statistics, “Academic Libraries Information Center,” accessed March 20, 2017, <https://nces.ed.gov/ipeds/Section/Alscenter>.
  - 6) National Center for Education Statistics, “IPEDS—Use the Data,” accessed March 20, 2017, <https://nces.ed.gov/ipeds/Home/UseTheData>.
  - 7) Association of College and Research Libraries, “About ACRL Metrics,” accessed March 20, 2017, [http://www.acrlmetrics.com/index.php?page\\_id=11](http://www.acrlmetrics.com/index.php?page_id=11).
  - 8) Association of Research Libraries, “ARL Statistics® & Salary Surveys,” accessed March 20, 2017, <http://www.arl.org/focus-areas/statistics-assessment/arl-statistics-salary-survey>.
  - 9) Association of Research Libraries, “ARL Statistics—Analytics,” accessed March 20, 2017, <http://www.arlstatistics.org/analytics>.